

二〇二〇年二月二日

降りしきる深雪に祈る羅漢の掌

素 秀

焼栗の試食マスクの動きをり

なつき

船影もなく冬風の水平線

よし子

咲いてよし散ってなほよし姫つばき

よし子

回廊を駈けをる風の落葉かな

愛 正

音もなく時雨るる嵯峨の石畳

よし子

レシピ付き菊芋並ぶ無人店

せいじ

一苦勞して立ち上がる炬燵かな

うつき

寒椿凜と白磁のつるくびに

かかし

紙漉きの振れ波打つ水の筋

宏 虎

魔法の杖あらばと仰ぐ冬銀河

うつき

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二〇年二月二三日

着膨れて恙もあらず白寿の賀

うつき

閉店を告げる張り紙路地寒し

よし子

大島の手作りマスク気品あり

はく子

極月やコロナ禍なれど小買物

わかば

喜寿祝ぎて十年日記買ひにけり

かかし

工程は濡れ手ばかりや紙漉女

小 袖

咲き揃ふ日を思ひつつ球根植ふ

菜 々